

ウシガエル捕獲大作戦！ ～特定外来生物ウシガエルの駆除を実施しています～

10月10日(木)、箕面国有林において『ウシガエル捕獲大作戦』を実施しました。

「箕面体験学習の森」にある「花の谷(ビオトープ)」は、モリアオガエルやトノサマガエルなどの希少な在来生物が確認されております。

ウシガエル捕獲大作戦は、明治の森箕面自然休養林管理運営委員会と協働で実施しているもので、特定外来種であるウシガエルの駆除を通して在来生物の保護及び生物多様性の保全を目的として開催しています。今年度は、「清水谷を守る会」「箕面観光ボランティアガイド」「箕面ナチュラルクラブ」「箕面生物多様性会議」の団体から参加され、当センターを合わせて10名での実施となりました。タモ網や投網を用いて、最終的にはオタマジャクシを205匹、成体のウシガエルを4匹捕獲することができました。今年度の現在の捕獲状況は、この大作戦の捕獲数を入れて347匹となり、最近ではトノサマガエルの小さい個体や、モリアオガエルの卵塊の数が多くなってきたように感じました。

当センターは、今後もこの活動を通して「花の谷」の生物多様性を守っていきたいと考えております。



池の中に入り捕獲

トノサマガエルは
準絶滅危惧種(環境省)です



トノサマガエル



ウシガエルの
オタマジャクシ

ウシガエルの成体

ウシガエルは
特定外来種です

投網による捕獲



網を投げる様子



網を引き上げる様子



捕獲した物を確認

『カブトムシ里親まつり（放虫編）』を開催しました！

10月13日（日）、箕面国有林において『カブトムシ里親まつり（放虫編）』を実施しました。このイベントはふれあい推進事業の一環として、NPOクワガタ探検隊と共催で実施しているもので、カブトムシの飼育を通して自然とのかかわりや命の大切さを学ぶことを目的として開催しており、今回は8家族27名の方が参加しました。

カブトムシ里親まつりは『飼育編』で参加者はカブトムシのオスとメスのペアを持ち帰り、『放虫編』では生まれた幼虫を昆虫ベッドに放すイベントで、自分たちで育てたカブトムシが次の世代につながっていく過程を体験してもらっています。参加者は、まずクワガタ探検隊の方が作成した創作紙芝居『タマムシの彩ちゃん』を観ながら、生き物についての知識を深めていました。次に、昆虫ベッドに腐葉土を敷き詰め、カブトムシたちのすみかを整え、子供たちは初めて触る幼虫にはしゃぎながら、自らの手でカブトムシを昆虫ベッドに放していました。

最後に、ビオトープ「花の谷」周辺を探検し、カエルやトンボ、トカゲなどの生き物と触れ合い、楽しんでいました。また、その際、特定外来生物のウシガエルを捕獲、観察することができ、初めて見るカエルの大きさに、子供たちだけでなく、大人の方も楽しんでいる様子が見られました。



創作紙芝居『タマムシの彩ちゃん』の上演



昆虫ベッドの整備中



カブトムシの幼虫を放虫



参加者の皆様

参加者からは、「紙芝居の絵が上手だった」「幼虫さん大きいカブトムシになるといいね」等の感想をもらいました。当イベントを通じて、生き物を育てることへの責任や、森の豊かさなどを学んでいただければ嬉しい限りです。

※昆虫ベッド：当センターが設置した、腐葉土を敷き詰めたカブトムシの生育に適した場所

